



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン:「貞節とヘジャーブ」計画

(現地報道取り纏め)

女性の服装規制の強化 (マルドムサラリー紙、ハムシャフリー紙、シャルグ紙ほか)

最近、イスラム法学者や議員たちが、若者たちの服装に対する規制をはじめとして、風紀の取締り強化をしきりに主張している。こうした発言は以前も見られたものの、ノウルーズ (3月21日~4月2日) 以降の多さは尋常ではない。

特に顕著なのが「バッドヘジャービー (女性の服装の乱れ)」撲滅に向けた規制の強化である。4月26日付イラン紙によると、ナッジャール内務相は、各州に設置された女性問題局の局長たちの会合において、市民権保護評議会を中心に「貞節とヘジャーブ (ヴェール)」計画を実施すると発表した。

この発表を挟む形で最近、政府主催の官製デモが実施されるとともに、メディアなどでもこの計画普及のための宣伝活動が頻繁に行われている。

- ・3月27日 ファーテメ・マアスーメ (第8代イマーム・レザーの妹) の年忌に際し、ヘジャーブを着用したコムの女性たちが「貞節とヘジャーブ」の文化の普及を目的に、「純潔の呼びかけ」という名のデモ行進を実施。
- ・4月17日 テヘランで金曜礼拝の導師を務めたカーゼム・サディーギー師、「願掛けをする女性には身だしなみの不適切な者が多い」とし、女性の服装の乱れをはじめとする社会的な罪業が、大地震などの自然災害を引き起こすと発言。
- ・4月28日 イラン国営放送の女性問題担当のサリーヒー顧問は、「貞節とヘジャーブ」の文化の普及に関して「女性の服装と化粧をより厳格に統制する」と発表。
- ・4月29日 テヘランのタジュリーシュ広場において、1500人が参加し、女性の着衣の乱れに抗議するデモを実施
- ・5月7日 テヘラン大学での金曜礼拝の後、ヘジャーブ未着用の文化が蔓延していることに反対する抗議デモが、同大学からエンゲラブ広場にかけて実施。
- ・5月16日 テヘラン市議会の計画予算委員会の委員であるパルヴィーン・アフマディーネジャード (アフマディーネジャード大統領の姉妹) は、「ヘジャーブと貞節計画に従い、ヘジャーブに対して頑強に反抗する者たちには、厳しく対処しなければならない」と発言。
- ・5月18日 アーヤトッラー・セイエド・アフマド・アラムアルホダーは、ファーテメ・ザフラー (預言者ムハンマドの末娘で初代イマーム・アリーの子) 殉教記念日に際し、ハフテ・ティール広場に集まった人々の前で、「ヘジャーブは文化に関わる事柄であるが、ヘジャーブの未着用は規範の無視であり、反体制分子による陰謀である」と発言。

- ・5月19日 大統領府女性家族問題センターの副所長ファリーバー・スーリーは「『貞節とヘジャーブ』はイラン文化に古くから存在しており、これが人々の内面で正しく形成されるためには、文化的土台を築く必要がある」として、「ヘジャーブと貞節」計画を学校や大学など若い女性たちが集まる場所から開始し、そこから各行政機関へ、そして各都市の全域へと拡大していくのが望ましいと発言。
- ・5月20日 女性文化社会評議会前会長のノウバフトは「イスラム革命以降バッドヘジャービーの取り締まりに誰も着手してこなかった。ヘジャーブに関するイスラム法上の規定を守ろうとしない者が多く見られるにもかかわらず、誰も彼女たちに関わろうとせず、野放しにしている」と発言。
- ・5月23日、内務省による「貞節とヘジャーブ」計画の実施開始とともに、国会では主として原則主義者の国会議員103名により「勸善懲悪法案」が提起され、賛成票172、反対票12をもって、今後、国会の司法・法律委員会にて審議されることが決定。同法案が最終的に可決されれば、(イスラムにおける宗教的義務である)勸善懲悪の観点から、全ての市民は他の市民の違反行為に関し、口頭、あるいは書面による申し立てを、法的権限を有する当局に対して行うことが可能になる。

イラン政府の狙い

イラン政府の推奨する服装規定から外れた装いをしているのは、主に都市部の若い女性たちである。そして、第10期大統領選挙(2009年6月12日)の時に都市部の若者や女性たちの多くが支援したのは、保守強硬派アフマディーネジャード大統領の唯一の対抗馬となった改革派候補のムーサヴィー元首相だった。

大統領選挙以来混乱が続く中での、「貞節とヘジャーブ」計画と銘打たれた女性の服装規制の強化は、イラン政府を批判する者たちに対する強いメッセージだと言えよう。批判は決して許さないというイラン政府の断固とした姿勢を示す道具として、今、ヴェールが利用されている。

こうしたイラン政府の姿勢が最初に出現したのが、2010年1月16日のチャードル(イランに特徴的なヴェール。半円形で頭と体をすっぽりと覆う。黒や小花柄が多い)の無形文化財指定である。ヴェールをイスラム体制による強制ではなく、イランの伝統文化と位置づけることで、着用を正当化する狙いがあったと思われる。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799